

# 相愛大学の音楽教育を推進

## 「<sup>ふん</sup>だ<sup>り</sup>け<sup>け</sup> 芬陀利華」など仏教讃歌を数々創作

船旅の静養に立ち寄ったハワイで： 若くして日本音楽界の第一線で活躍していた山田耕筰は大正6年、アメリカの音楽界にデビューするため、航路ニューヨークに向かいました。しかし、静養のためにハワイに立ち寄りませす。

弟子である澤康雄（本願寺派僧侶）がハワイ在住だったことから、 Honoluluにあるハワイ別院が静養場所選ばれました。熱心なクリスチャンの家で育った山田は後年、ハワイでの僧侶たちとの触れ合いの中で、仏教に関心をもつようになった、と語っています。

静養のお礼に何かしたいという山田に対し、澤は仏教讃歌の創作を願った。昭和12年から相愛大学に

は仏教讃歌の創作を願った、と語っています。

静養のお礼に何かしたいという山田に対し、澤は仏教讃歌の創作を願った、と語っています。

また山田は、宗教音楽科の設立を目指して、宗教界や音楽界の重鎮と連携し、宗教音楽に関する研究会や演奏会などを開催しました。現在、龍谷総合学園が主催して毎年夏に開いている宗教教育研究会には、音楽教師が集って学ぶ音楽部門があります。これが当時、相愛で開催された研究会を起源にしていることはあまり知られていません。

「赤とんぼ」「からたちの花」など数々の名曲を創り、日本の音楽界をリードした作曲家・山田耕筰（1886～1965、写真＝日本楽劇協会提供）。今年は没後50年にあたる。仏教讃歌の創作や宗門校・相愛大学の教授を務めるなど、一般には知られていない宗門との深い縁を、本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室長の福本康之さんに寄稿してもらった。



教壇に立ち女子学生に音楽を教える山田耕筰。昭和14年5月、相愛女子専門学校（現相愛大学）の授業（『相愛学園百周年記念誌』より）

しかし、今日の宗門における仏教音楽の興隆を考えた時、山田の功績は忘れられないものです。没後50年を機にあらためて、そのことを広く知っていただきたいと思えます。

遺された数々の名曲やクラシック音楽界の巨星としてあまりにも有名なためか、山田のこうした仏教音楽、そして宗門との関係は、残念ながら人々の記憶から失われた感があります。

澤の「恩徳讃」発表から34年後の昭和27年、新譜の「恩徳讃」（清水脩作曲）が発表されます。この時も山田は、本願寺葬儀は、東京の築地本願寺で営まれました。法名は「響流院釈耕筰」、築地本願寺の墓苑にお墓と歌碑が建てられています。

### 龍谷大、京女大の校歌を作曲

昭和40年に山田が亡くなり、宗教音楽科の創設などは3作品を書いておは幻となりました。しかし、その思いは、音楽法「恩徳讃」の発表に関わった要や新しい仏教讃歌など、新しい時代の宗門文化として結実し、今日まで受け継がれています。

山田はさらに、宗教音楽に関する講演を本願寺や平安中学校で開いたほか、龍谷大学や京大女子大学などの校歌作曲など、宗門や宗門校でも活躍を見せています。